

特集◆◆◆◆「海技の伝承」 救命筏の基礎知識

◆ 船員の命を守る ◆⑪ 生き抜くために必要な「救命いかだ」の知識

洋上を航行する船舶には海難に遭遇した場合に備え、命を守るための救命艇や「救命いかだ」などが設備されており、万が一の不幸な事態を避けるため、救命いかだに関する知識は必要不可欠である

「生存指導書」でのポイント

「生き抜くために望みを捨てるな。救助は必ずやってくる。」

必ず救助される機会は得られる。この希望を捨ててはならない。

飲料水

飲料水さえあれば何はなくとも40日は生きられる。航海が始まって最初の24時間は水を飲まないようにしよう。

海水は絶対に飲んではいけな。飲料水とまぜて飲んでもならない。雨水は天の助けだ、ありとあらゆる容器を利用して水を集めよう。1日に飲む水の量は500mlが適量だが、持ち水が少ないときは1日100mlか250mlに制限する。糧食係を決めて公平な分配をしよう。しかし、水に対する耐久度には個人差があり、多量の水を必要としない人もあるから、リーダーとよく打ち合わせ、衰弱している人には割当量より多い水をあたえるようにする。

飲料水の飲み方

水は(1/3は太陽が出る前に、1/3は日中に、そして1/3は太陽が沈んでからと)3回に分けて飲むのがよい。

水を飲むときには、ガブガブ飲んではならない。持っている水を少しずつしばらく口にふくみ、唇を湿らし、うがいをしながらゆっくり飲むのが上手な飲み方である。

海水飲用の危険性

海水は飲むな。海水を飲むことで、体をつくっている水分が失われ、大脳を刺激して、ますます水がほしくなり、また海水を飲むという悪循環を起こす。この結果、体は衰弱し、意識は混濁してしまう。

熱帯地方で沈没した船から、飲み水が一滴もない雨風にさらされたままの救命艇に乗って14日間も漂流し続けた例が、日本にも、また諸外国にもある。この場合、乗艇者の誰もが生きる望みを捨てず、海水は全然飲んでいなかった。

また、こんな例もある。沈没したある船から脱出した2隻の救命艇があった。1隻の救命艇には63人が乗艇し、108時間飲まず食わずで漂流後、全員が救助された。この救命艇の乗艇者の誰もが、海水を飲んでいなかった。

もう1隻は57人が乗艇し、117時間後に救助されたが、このうち50人は救助される前に死亡していた。救助された7人は、他の人たちは海水の飲用を制止するのも聞かず飲み、ついには、うわごとを言いつつ海中に転落死亡したと報告している。

「海員だより」